

コード No. 28019

**Anti-Human
LRRK2 Rabbit IgG Affinity Purify**

容量 : 100 µg

はじめに : パーキンソン病は最も一般的な神経変性疾患のひとつであり、進行性のドーパミン作動性神経細胞の減少により特徴づけられます。Leucine-rich repeat kinase 2 (*LRRK2*) は常染色体優性遺伝パーキンソン病の原因遺伝子のひとつです。*LRRK2* 遺伝子は 2,527 アミノ酸、約 280kDa のタンパク質をコードしており、Leucine-rich repeat, Roc (Ras of complex proteins), COR (C-terminal of Roc), MAPKKK (mitogen-activated protein kinase kinase kinase) および WD40 ドメインを有しています。最近の研究から、*LRRK2* タンパク質にはキナーゼ活性があり、*LRRK2* 遺伝子の変異によりそのキナーゼ活性が上昇することが報告されました。さらに、*LRRK2* 遺伝子変異によるキナーゼ活性の上昇が神経毒性を誘導することも示されました。しかしながら、*LRRK2* タンパク質の機能については不明な点が多く、また、パーキンソン病発症機序における役割もわかっていません。

免疫抗原 : Human *LRRK2* の C 末端部分合成ペプチド (HIEVRKELAEKMRRTSVE)

精製方法 : 抗原ペプチドによる特異精製

包装形態 : 1% BSA、0.05% NaN₃ 含有 PBS 1.0 mL に溶解したものを凍結乾燥

再生方法 : 精製水 1.0 mL 添加(この時濃度は 100 µg/mL となります)

保存方法及び安定性 : 2 ~ 8 °C 保存 5 年間安定

: 溶解後 -20 °C 保存 2 年間安定

使用目的及び使用方法 : ウェスタンブロッティング 1~3 µg/mL にて使用可能

- 参考文献 : 1. Hatano T, Kubo S, Imai S, Maeda M, Ishikawa K, Mizuno Y, Hattori N. Leucine-rich repeat kinase 2 associates with lipid rafts. *Hum Mol Genet.* 2007 Mar 15;16(6):678-90.
2. Smith WW, Pei Z, Jiang H, Dawson VL, Dawson TM, Ross CA. Kinase activity of mutant *LRRK2* mediates neuronal toxicity. *Nat Neurosci.* 2006 Oct;9(10):1231-3.
3. Gloeckner CJ, Kinkl N, Schumacher A, Braun RJ, O'Neill E, Meitinger T, Kolch W, Prokisch H, Ueffing M. The Parkinson disease causing *LRRK2* mutation I2020T is associated with increased kinase activity. *Hum Mol Genet.* 2006 Jan 15;15(2):223-32.